

「古の越谷の四季から見た賑わいと今」

～塩屋吉兵衛の客人へのおもてなしから探る～

旧越ヶ谷宿を中心に発展してきた越谷市。今、数々の新たな街づくりに取り組む中、中核都市へと大きく飛躍しました。この度、「越ヶ谷塩吉のもてなしと再度の散歩」から改めて越谷宿を中心とした繁栄・魅力、先人が築き上げた越谷の人々の心の温かさ、おもてなしの心、心意気の原点を感じました。旧越ヶ谷宿も現存する蔵や古民家を再生し、新しい街づくりに向けた事業が始まっています。今、新型コロナウイルス感染予防のため近郊での楽しみ方をすすめられていることから、郷土の歴史を参考に、今なお面影を残す風景や歴史を楽しみながら散策してみても如何でしょうか。

蔵の再生や古民家の佇まいで街の賑わいを創出



はかり屋「登録有形文化財（建造物）」



木下半助商店「登録有形文化財」



麴屋蔵



「油長内蔵を再生」



米長乾物店



鍛治忠商店（雑貨）



会田金物店



白鳥家蔵の前で重陽の節句を楽しむ



宿場祭り



雑祭り・甲冑祭り



旧日光街道にかかる大沢橋

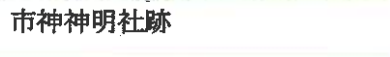


伝統と格式のある 越ヶ谷秋まつり



越谷梅林公園

越谷梅林公園



市神神社跡



北越谷桜堤

参考資料
越谷の歴史ものがたり
越谷ふるさと散歩
越谷風土記
北越谷の歴史



神明橋



かつての船着場から神明橋に続く芝桜

元荒川 吉川方面より浄山寺に続く



廬田秋
越ヶ谷・間久里

あのうなぎ料理は
おいしかったな。

弥次さん・喜多さん

3



最近の越谷産うなぎ

廬田秋

当時の看板



6



4



塙屋吉兵衛屋



5



せんげん台

大塚

新方川

越谷八丁

北越谷

国道463号

国道463号

国道4号(首都ハイパス)

越谷

足立越谷線

新越谷

越谷

元荒川

越谷レイクタウン

瓦曾根溜井



11



12



7



9



8



8



14



13

「越ヶ谷塩吉のもてなしと再度の散歩」に出てくる越谷の名所を辿ってみました。時代の流れとともに見どころは変わりましたが、大聖寺から土手沿いに瓦曾根河岸市役所に向けた元荒川橋からの風光明媚な景色は変わらず、春は芝桜・桜並木・梅林公園と続き、土手に沿って浄山寺・岩槻に続く道を古に思いを馳せながら辿ってみませんか。

1 塩屋吉兵衛屋敷

2 徳川家康御殿跡の碑



御殿跡から出土した
鼈甲の櫛

3 上間久里のうなぎ

越谷宿と粕壁宿の間の休息所、立場にあった。うなぎ屋が数件あり、特に秋田屋という店は佐竹の殿様が気に入って、秋田屋という名前をつけたという。弥次さん、喜多さん他たくさんの旅人が立ち寄った。当時は前に川が流れ白鷺が浅瀬で魚をとろうとする様や桃林の景色など趣があったようです。

絵は弥次さん、喜多さんが活躍する十返舎一九作
「奥羽一覽道中膝栗毛」の間久里のシーン。

4 浄山寺

霊験あらたかな地蔵として湯島や関東一円への出開帳を通じて多くの人に知れ渡り、諸国から参詣人が絶えなかったとしている。

ご開帳の日には小間物、飴や、独楽まわしその他境内狭しとたくさんの露店が並んだ。※ご開帳の日、今は昔ほどに賑わいはないが、日頃より参詣客が絶えない。

5 越谷の桃

元荒川沿いの桃林は「徳川実紀」の編纂者「成島司直」から江戸近郊花見の名所として小金井の桜・杉田（横浜）の梅・越谷の桃林と紹介され、砂丘となっていた大房から大林、新方にかけて一面桃色に染まった。素晴らしい景色に、訪れた人は皆、感嘆の声をあげた。絵は二代目安藤広重「錦絵「武蔵越ヶ谷在の桃」。余りの美しさに富士山をバックにした版画を描いた。

6 大房の蛍合戦（蛍の群舞）

とても大きな蛍が群れをなして飛んでいて火の玉ほどの大きさになったり、散ったりまるで蛍の戦争のようだ「遊歴雑記」に紹介された。

7 急ごしらえの客船にして船の中でもおもてなしをした。

8 光頭大会（別名ハゲ大会）

この日に向けて大会に出る人は、豆腐屋さんには頭におからを塗って磨いたとかいろいろ逸話がある。賞品はやかん、カナダライ、洗面器、鏡、電球など。

9 船着場

10 瓦曾根溜井・11 瓦曾根河岸・高瀬舟

川幅の大きく湾曲しているところ（今のしらこぼと橋あたり）にたくさんの水が溜められる堰があった。ここから八条用水・葛西用水・農業用の水が通っており田畑を潤し、越谷特産の米や慈姑、桃の生産を盛んにした。又、生産物をのせた高瀬舟が行き来していた。

越谷産のもち米は赤福餅の材料にも使われたとか。米も宮内庁にも納めたという。越谷の商人や地場産の野菜、工芸品などとても信頼が厚かった。

12 大聖寺

蒲生の立場（休息所）から不動尊に向かっていく道には四季折々の花が咲きとても風情があった。祈願寺としての参詣客が絶えなかったので門前に多くの店が並んだ。

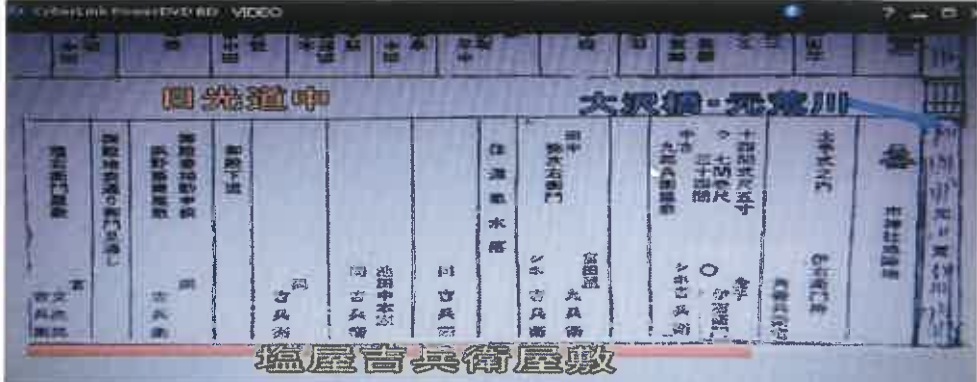
13 高級果物店「千疋屋」

発祥地「千疋」（現在 東町）

千疋村の弁蔵という人が江戸川・中川周辺の桃を江戸親父橋河岸へ送る産地直送・直売方式を考案して現在の千疋屋を築いた。水害により桃林が消えて行くと共に梅の栽培が盛んになってきた。

14 藤助河岸

江戸中期頃から綾瀬川の舟運で繁盛し年貢米をはじめ様々な商品が江戸へ運ばれた。



大正6年(1917年)に江戸叢書刊行会により刊行され、全12巻より成る。その中の7巻、江戸・小日向(現・文京区)廓然寺(浄土真宗、明治12年廃寺)の住職だった十方庵敬順(1762-1832)が隠居後に各地を旅した先での見聞を詳細に記録したのが『十方庵遊歴雑記』と題する書物。この中に書かれていた「越ヶ谷塩吉のもてなしと再度の散歩」を大野光政さんが現代版に解説した。資料を頂いたことから、遠方からも足を運んだという風光明媚な見どころを辿り、もてなし料理、庶民の食事などを調べてみました。



名主・問屋 池田吉兵衛 (通称 塩屋吉兵衛)
油と諸国の塩を引き受け、蓄え持つ大問屋で相当な財力をもって大名や文化人をもてなした。食事だけでなく越谷の名所も案内している。全国的に飢饉や世情不安になったときは名主・問屋の有力者たちがいち早く救済活動をしたが、特に塩谷吉兵衛は多額のお金を拠出したそうである。

塩屋吉兵衛屋敷
間口50余間(約100M)奥行き330M
3間と5間の土蔵左右18棟。倉庫36棟。
他にいくつもある。
使用人 70余人。邸宅は2~3千石余り
今の桃木診療所から市神神明社あたり

越谷市は1級河川が5本流れており、交通の要衝として一大消費地江戸と地方を結ぶ大事な役割を果たし、高瀬舟や大小の運搬船が行きかい賑やかだった。又「江戸から数えて3番目の宿場」として江戸との往来が盛んだった。

立地条件が良かったことと、人や物資の資源が豊富だったことから沢山の商店が軒を並べ江戸や越谷近郊から徒歩や船でくるお客を迎え賑わった。

- ①四方川に囲まれ肥沃な土地柄、田畑からの収穫や良質の米が収穫された。・・・米穀商が多い。
- ②川を利用した染物が盛んだった・・・呉服商が多い。
- ③東照宮の建設や越谷御殿に関わった職人や江戸で修業した人達が越谷に住みつき工芸品を作ったと思われる。



昭和初期まであった呉服商「萬壽屋」の鬼瓦。店先には沢山の番頭さんが並び、店の前を歩く若い女性は恥ずかしかったという位大きな呉服商だった。今ものれん分けした呉服屋さんがある。



木下半助商店蔵の扉



秤屋の線路跡

トロッコ用線路跡 船から荷下ろしたものを馬で店まで運び、奥行きが長かったのでトロッコで奥の蔵へ運んだ。線路は戦時中、鉄の供出をしたので今は面影だけ。ほかの商店にもみられる。

このあたりはネット7-713 連絡先 048-976-0738 野崎